

# TOWARD THE NEXT STAGE

みんなで作る「新しい文化会館」の取組状況をお届けします

2023.10  
Vol. 7

飯田文化会館

## ニュースレター

TAKE FREE

伝える 集う 創造支援機能 創る

地域の人たちが  
集まって作り出す  
拠点施設

交流促進機能  
これまでの「まち」を  
育む施設  
文化活動を継承

### 第8回 飯田市新文化会館整備検討委員会

#### 飯田らしい施設と事業

～基本理念・活動を実現する施設機能と必要とされる事業とは～

誰かが集う  
ことができる  
芸術文化施設

心が満たされる鑑賞の機会  
積極的な情報発信  
芸術文化を介してのコミュニケーション

芸術文化活動の  
担い手が育つ環境

管理運営機能  
鑑賞機能  
観る  
感動の  
飯田ひろば



9/5 Tue

# 第8回 飯田市新文化会館整備検討委員会 飯田らしい施設と事業

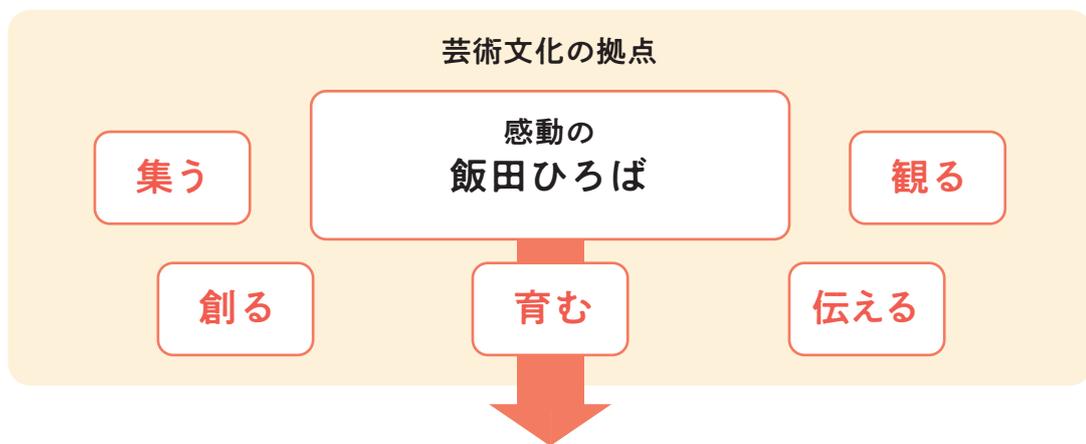
～基本理念・活動を実現する施設機能と必要とされる事業とは～

今回は、これまでに検討委員会が積み重ねてきた議論の内容に加え、7月に実施した飯田文化会館を利用する団体の皆さんとの意見交換会（飯田文化協会共催）で出された意見も反映した、基本理念・基本方針（案）を提示しました。

その後、前回議論した「鑑賞」「創造」「交流」を実現する機能や空間のあり方を振り返り、それらをさらに深掘りした意見交換を行いました。

新しい文化会館の**基本理念**

みんなが集い、創り、伝える 感動の 飯田ひろば（仮）



新しい文化会館の**役割**

「ひと」を育み 「まち」を育み 「活力」を生み出す

## 飯田らしい文化施設(新しい文化会館)の5つの基本方針（案）

- 1 集う** … 飯田下伊那の地域の皆さんを主な対象として、誰もが集うことができる芸術文化施設を目指します。
- 2 観る** … 地域の皆さんが優れた芸術文化に触れ、心が満たされる鑑賞の機会を提供します。多様な分野の質の高い舞台芸術の公演を実施します。
- 3 創る** … 飯田の新しい芸術文化を地域の皆さんが集まって創り出す拠点施設となることを目指します。
- 4 伝える** … 自分たちの創り上げた作品を人々に発表・発信することや芸術文化を介してのコミュニケーションを行います。また、伝統芸能の伝承やこれまでの文化活動を継承するとともに、積極的な情報発信をします。
- 5 育む** … 芸術文化活動の実演者や支える人材を育成するとともに、将来の芸術文化活動の担い手が育つ環境を整えます。さらに「まち」を育む施設となることを目指します。



## 基本理念を実現するために必要とされる、具体的なコト(事業・活動)は?

5つの班に分かれて、議論を深めました。

## 感動の飯田ひろば

想定される  
コト(事業)

## 集う

- 誰が、どう集う?
- どんな交流?

## 観る

- 誰が、何を観る?
- どんな鑑賞?

## 創る

- 誰が、何を創る?
- どうやって創る?
- どんな創造?

## 伝える

- 誰が、誰に、何を  
どうやって伝える?
- どんな継承、発信  
普及?

## 育む

- 誰が(誰を)どう  
やって育成する?
- どんな育成?

施設機能

1 鑑賞機能  
ホール  
(メイン・サブ)

2 創造支援機能  
スタジオ、リハーサル室  
工作室

3 交流促進機能  
オープンスペース  
ホワイエ、広場

4 管理運営機能  
事務室、機械室

## 需要と供給のハブになる事業の充実を(1班)

国内外で活躍している飯田の人たちの凱旋の機会を作り、次世代の育成に携わってもらうことで、良いスパイラルが地域を発展させるのではないかな。

リニア開通に際し、外から観客を呼ぶのは難しいという専門家の意見もあったが、識者を呼びやすくなる・学びやすくなるという考え方もできると思う。

「こういうものを見たい需要・できるという供給」のハブになるソフト事業を充実させていく必要がある。

## 市民主体の活動のノウハウを活かして(2班)

「伝える」ことが、「集う」「観る」につながってくる。飯田で文化芸術に携わっている人や活動を、発信して広めていくことや、活動しやすい環境づくりが大事だと思う。

また、オケ友や人形劇フェスタなど市民主体の行事が多いことは一つの長所。ノウハウを活かすことで、市民団体の横のつながりや企画ができる。そんな組織ができると底辺が広がり、子供たちが携わっていければ「育む」につながる。バックアップできる体制があれば、活動も大きくなるのではないかな。

## 「集う」ための企画と、サポートする機能を(3班)

「集う」を意識して企画し、仕掛けていくことが大事。よその人、地元の人、関係のない人に向けた「集う」ための機会を作り、「集う」をサポートするサブホール、スタジオ、リハーサル室を、どれだけきちんと整備できるかが重要。

また、「大きな公民館」をイメージする場合、誰でも簡単に使えるように、サポートする機能も必要。集い、交流することで相互理解が深まり、広がっていくと思う。

## 舞台と中身が調和する市民が育つ場所(4班)

どんなものを作りたいか、より、どんな使い方をすると良いか。建物が大きくても十分に使えていない、ということがないように、どんな人を呼べて、何ができるのか。舞台と中身の調和が取れ、観る力、演じる力を育てることが大事。市民が育つ機能を併せ持つ場所であることが望ましい。

少子高齢化の時代、どうやって芸術文化に親しむかは、建物以外の部分にもっと視点を広げて学ぶことが必要。

## まずは楽しむ。その先に「育む」がある(5班)

関わる人が楽しむことが、「育む」につながる。市民が実行委員という形式が現在の文化会館の支えになっている。一方、実行委員会のメンバーの固定化や重複して関わっている課題があり、もっと広がりがあっても良いと感じる。どうやっていけば良いか市民で考える場や、少し高いところからみる組織も必要では。



## 学識委員からのコメント

### 日常に寄り添い 次の時代を切り拓く存在に



竹田市総合文化ホール  
グランツたけた(大分県)  
チーフプロデューサー

元 上田市交流文化芸術センター  
(サントミュージゼ)プロデューサー

おざわ おうさく

小澤 櫻作 学識委員

新しい劇場ができるということは、その町の日常に寄り添う劇場がそこにあるということ。「集う」「観る」「創る」「伝える」「育む」が、日常としていかに寄り添い、次の時代を切り拓く存在になっていくのか。そんなことを感じさせられる会だった。

今までの検討委員会で積み重なった意見がまとまってきて、ワクワクするものになってきている。あと数回の検討委員会、夢のある構想へと発展していけたらと思う。

### 若者の利用が ホールの活性化、町の賑わいを創出



元 名古屋フィルハーモニー交響楽団  
演奏事業部長

やまもと ひろし

山元 浩 学識委員

こういった会議でありがちな「好きなアーティストを呼んでほしい」といった話にならないのも、「飯田らしさ」と言える良いところ。

今後若い人が使っていくようになると、ホールの活性化、町の賑わいにつながる。そのためには、若い人の情報発信力に耐えられるホールを作る必要がある。

また、新たな人材育成の場、ホールのスタッフを目指す人の育成の場にもなっていって良い。

### 使い方をイメージしながら 能動的な議論が展開されている



明治大学教授

ささき ひろゆき

佐々木 宏幸 学識委員

毎回委員会は、議論に一貫性があり、同じ意識で内発的、自発的な創造ができていく感じがすごいと感じる。

こんな空間で展開したら楽しいのでは?というイメージをしながら、ハコの話ではなく、使い方の議論ができていく。内発的・自発的な取り組みが、地域の社会情勢にも合っていることが確認できた。

今回、基本構想にかなり組み込まれる内容が話された。これからこういった構想にまとめられてくるのが楽しみ。

## 新文化会館の整備検討に関する報告・意見交換会(利用団体)

7月11日から5回にわたって、飯田文化会館を利用する団体の皆さんとの意見交換会を飯田文化協会と共に開催しました。延べ20名(17団体)の方にご参加いただきました。

これまでの検討状況をお伝えした後に意見交換を行い、「舞台機構の充実」「舞台と同じ広さのリハーサル室」「誰もが集える空間」など、検討委員会と同様のご意見が多くありました。



## 飯田文化会館 今昔物語 vol.4

50年前の開館時には、結婚式場としても利用されていた飯田文化会館。

現在の2階会議室はセレモニー会場として。そして、2階講習室は披露宴会場として、多くの花婿花嫁の門出の場所として利用されていました。



昭和51年10月に行われた下井さんご夫妻の結婚式・披露宴